

# EDUCATION

## 医学生生理学クイズ大会 (PQJ2018) 活動報告

医学生生理学クイズ大会 2018 代表 鳥取大学医学部医学科 5年 永水 恭介

2018年5月19日、20日に鳥取大学医学部で医学生生理学クイズ大会(PQJ2018)が開催されました。日本、そして海外から合計11大学、15チームが出場し、その他多数のオブザーバーも参加されました。2日間にわたる医学知識の競い合いの結果、今年度の優勝は防衛医科大学の6年生チームとなりました。

私がこのクイズ大会の開催を決意したきっかけは、PQJに参加した医学生に普段の学生生活における講義・実験・臨床実習等では得られない熱烈な刺激を体感してもらう為でした。クイズ大会に参加するということは、その場でしか感じることでできない緊張感やプレッシャーを味わうこととなります。出場者では言わずもがなです。そして、クイズ問題を通して自分の知識と他大学の医学科生との差を見て自信や焦燥感、至らなさを自覚する。そのような刺激は今後の自身の学習意欲の向上に繋がると確信したからこそ、私はこのPQJ

2018を成功させようと思立ったのです。

私がクイズ大会で参加者の皆様に伝えたいメッセージは「切磋琢磨」と「親睦」でした。出場しているのは全て医学部医学科生であり、全員が将来は医師国家試験に合格して良き医師・研究者になるという夢を共有しています。クイズ大会で他大学と得点を競い合うということは、自分の医学知識がどれほどのものが試されているということになります。今回、PQJ2018で出場された問題数は約800問。これだけの問題数があると、「他大学には自分が知らないことを回答できる学生がいる」、「あの医学生は凄い」と思わせられることも多々あったことでしょう。このような刺激は自らの学習に対する意欲を強く掻き立てることとなるでしょう。更に、参加者はこの自分への刺激をPQJの懇親会で知り合った他大学の学生と共有し合うことで、お互いを称賛・尊敬し、共に医学の学習で切磋琢磨し合える関係を構築してしまし



写真1. PQJ2018の全体写真



写真2. PQJ2018・予選の様子

た。これが「切磋琢磨」と同時に私がPQJで参加した学生に培って欲しかった「親睦」です。普段の大学生活で他大学の学生と積極的に交流できる機会は本当に少ないです。PQJはその貴重な機会の1つですし、「医学の学習」という全ての医学科の学生の共通目標についてお互いに競い合い、そしてともに成長し合える素晴らしい大会であると思っています。

この「切磋琢磨」と「親睦」を達成するために重要なPQJのメインイベントが2つあります。1つは当然、クイズバトルです。今年は例年通りの早押しクイズとフリップボード問題に加えて、制限時間以内に何問回答できるか、という新たなゲームを試みました。この新企画は大変好評だったようで、会場内のプレッシャーの中で制限時間以内に回答するという最高の緊張感と面白さを与えてくれるところが魅力的です。今回のクイズ大会ではこれらの試みを通して参加した医学生に「楽しみながら医学を学習する」ということを伝えられた、と確信しています。そして、もう1つのイベントは懇親会です。今年度から大会は2日間の日程で開催し、1日目の夜に立食形式のバーベキューを行いました。懇親会はクイズバトルと並んで重要なイベントだと思っており、お互いにライバルとして競争し、そして共に更なる高みを目指して良き医療従事者となるために競い合った仲

間と仲を深める貴重な時間となっています。かの有名な吉田松陰は「けだし学の道たる、おのれが才能をひけらかして人を屈するゆえんにあらず。人と教育して同じく善に帰せんと欲するゆえんなり」という言葉を残しています。医学知識は他人とただ争い合うために獲得するものではありません。クイズバトルとともに戦った相手と良き競争をし、ともに学習意欲の向上を更なる成長へと繋げていくことこそがPQJの本質ではないかと考えております。

現在、教育ではActive Learningの導入が進められています。普段の大学での学習の大半を占めるのはおそらく講義を視聴する形式のPassive Learningが多いのではないのでしょうか。私は講義や教科書の内容を自分でノートにまとめて積極的に学習していますが、ただInputするのみでは不十分ですのでOutputが必要です。Active Learningの世界では「人に教える」というのが最も学習効果が高いと言われており、私も医学の勉強では常に「人に教えられるレベル」に達するまで学習するよう心掛けています。私は「問題作成」はこれに類似する行為なのではないかと思っています。今回のPQJ2018では7名の問題作成委員会の尽力により、前年度より問題数を大幅に増加させて約800問を出題しました。これは回答する出場者のActive Learningになると同時に問題作成者



写真3. PQJ2018・決勝戦の様子

の Active Learning になり、今後更に良質な問題へと Brush up するための絶好の機会にもなります。良問を作成するのは非常に難しく、私も PQJ 2018 を通して大会運営の良い経験となったのみならず、問題作成を通じた知識の再整理・良問作成の方法を学ぶことができました。大学では定期試験がありますが、このような試験において医学生が積極的に学習した内容をもとに学生自身で問題作成をし、それを Brush up して出題するという形式を採用するのは学生にとって非常に高いメリットがあるのではないかと考えています。

PQJ2018 終了後のアンケート結果では、多くの学生がこれから先の学習意欲につながる良い大会であったと高い評価をいただき、私の PQJ2018



写真4. 懇親会挨拶時

の運営理念を達成できたと確信しています。来年度以降はより質の高い、そして医学の学習に対する良い刺激となる大会になることを祈り2019年度を楽しみにしたいと心より思っております。

#### 【PQJ2018・出場大学一覧】

長崎大学・島根大学・岡山大学・徳島大学・大阪医科大学・大阪大学・奈良県立医科大学・藤田保健衛生大学・防衛医科大学・東北大学・国立台湾大学 計 11 大学・15 チーム

「教育のページ」は学部学生、大学院生、ポスドク、教員などを対象に、生理学教育に関する取り組みや意見を紹介することを目的としています。原稿は Web（日本生理学会ホームページ）上にも掲載されます。皆様のご投稿をお待ちしています。投稿規程は [http://physiology.jp/magazine/contribution\\_rule/](http://physiology.jp/magazine/contribution_rule/) をご参照ください。